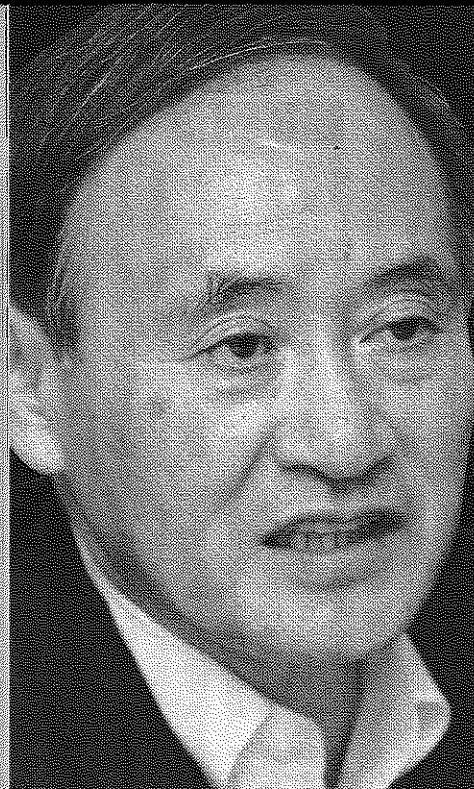


菅「側近」 横浜カジノ



菅首相

和泉補佐官



反対を表明しているが、当選してはとぼりが冷めれば、ケロッとIR構想を復活させるのではないかと。山中陣営は、それはあながち的外れともいえない。事実、林も四年前の市長選でカジノIR構想を白紙にすると言いつつ、当選後に復活させた経緯があった。まして小此木は実父・彦三郎の秘書を務めてきた菅を子供の頃から慕い、政界では自他ともに認める菅の弟分だ。横浜へのカジノ誘致を悲願としてきた菅との関係から有権者が不信を抱くのは無理もなかった。

第二次安倍晋三政権は発足後間もなく、カジノIR構想を成長戦略の目玉に据

えた。官房長官だった菅は横浜市政を操り、カジノ誘致を画策してきた。そのため横浜では菅の側近たちが奔走し、カジノ利権が渦巻いてきた。

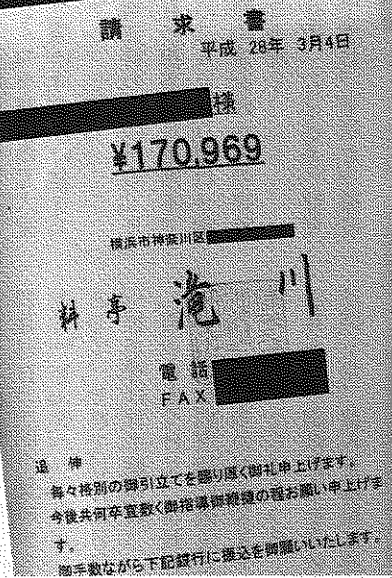
一人は林市長の下、カジノIR構想を取り仕切ってきた副市長の平原敏英（62）だ。四人いる副市長の筆頭格であり、菅とは携帯電話で連絡を取り合うホットラインがある。横浜市のプロパー職員で一貫して都市整備畑を歩み、課長時代に菅に見出され、菅人事により二〇一六年に副市長に昇りつめたとされる。チャンネル長をはじめとするRXI社の幹部たちはその平原と何度も会い、IR構想について密談を重ねてきた。それを可能にしたのが菅と縁の深い二人のキーマンだ。

在日韓国人実業家の河本善鎬。河本は横浜市内でパチンコ店を経営して財を成した菅のタニマチと幾度もその名が取り沙汰された。中でも菅が代表を務める自

冒頭の宴は、まさにそんな利権漁りの一幕といえる。横浜のIR開発参入を狙ってRXI社が接待を重ねた相手とは、横浜市に睨みを利かす菅の腹心たちである。

さらに、元公明党横浜市政の石井睦美。もともとは公明党代議士秘書で、小此木彦三郎の秘書だった菅と、先輩秘書として知り合った。菅が九六年に国会議員になってからは横浜市議員として創価学会・公明党とのパイプ役を担ってきたという。約十年前に市議を引退した後は河本の会社の顧問になっている。

平原、河本、石井——三人はいずれも地元横浜の政界通の間で菅と極めて近い「側近」と目されてきた。その三人が料亭滝川でR



請求書で支払ったケースも

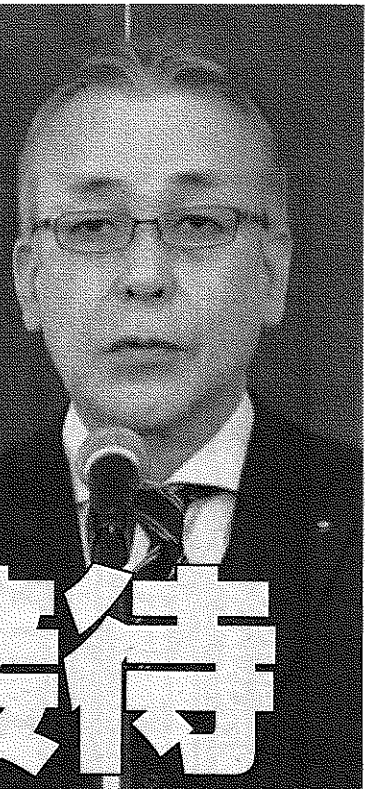
やり取りを記した裁判資料

民党神奈川県第二選挙区支部の事務所費問題が取り沙汰された〇七年には、菅が所有するそのビルを買い上げたことで有名だ。違法献金疑惑なども報じられてきた。

噴き出す政権の闇

ノンフィクション作家 森 功 + 本誌取材班

業者から 違法接待



平原副市長

かつて「影の横浜市長」と呼ばれた菅首相。今も絶大な影響力を持ち、IR担当の副市長は「菅が決めた」と言われる。その副市長が、参入を狙う業者からたびたび高額接待を受け、資料を渡していた。仲介したのは「菅のタニマチ」で知られる韓国人経営者で…。

領収証 入手

RXI社が接待費を支払った領収証

「これが本格的に動きだせば、せめて一本くらいはオヤジに持っていきたいかんといかんでしょね」

昨今、中国本國はもとより香港やシンガポールで富を築いた華僑のリゾート開発業者が、日本で不動産開発に触手を伸ばすケースをしばしば耳にする。横浜市のカジノIR構想も例外ではない。ジャッキー・チャン会長の率いる中国系屈指の企業集団RXIグループ（社名、人名ともに仮名）も

その一社だった。横浜のカジノIR構想はさる八月二十二日に投票票がおこなわれた市長選で最大の争点となった。史上最多、八人の候補者が乱立したが、結末は周知の通りで、いまや中央政界を大きく揺さぶっている。

横浜市長選は、この地を長らく地盤とする首相の菅義偉（72）の思惑に反して三つ巴の争いになった。もとはといえば菅は自らの肝煎り政策であるカジノ推進派の市長、林文子をバックアップしてきた。そこへ突如、小此木八郎が国家公安委員長を投げ出し、カジノ反対を表明して出馬。菅と縁の深いこの二人に対し、早くからカジノ反対の旗を掲げてきた「ハマのドン」藤木企業会長の藤木幸夫や立憲民主党が推す元横浜国立大学教授の山中竹春が、真っ向から闘いを挑んだ。結果、山中が圧勝した。

小此木の敗因はさまざまあるが、やはり市民のカジノアレルギーが根底にあったのは間違いない。「小此木は表向き、カジノ

られ……

容積率とは敷地面積に対する建物の延べ床面積割合の制限を指す。六〇〇%だと、一万平米の敷地に床面積六万平米のビルを建設できる。開発業者にとって、容積率が大きければ大きいほどありがたい。容積率がどう緩和されるか、それは開発業者にとって、極めて重大な情報だ。市の開発計画推進のトップである副市長から直々にその説明を受けているのである。

この日、平原からは「M21街区について」と題された一枚のペーパーも手渡された。それ自体は従来の建築基準が記された資料だが、余白に手書きで半年後の「年明け公募」と走り書きされている。そこから、翌一七年の公募時に規制緩和

ければ市の幹部につきまよ。日本法人から報告を受けたRXI本社の会長、チャンはこれに飛びつき、彼らのIRプロジェクトが動き出した。明るく一六年、チャンたち一行は横浜港のハーバーリゾート開発地域視察のために来日。このとき平原は、IRをはじめとした都市開発を担う都市整備局長だった。三月二日、チ

ヤンと日本法人代表が初めて宴席を設けたのが、冒頭の料亭滝川だ。時系列を細かく記した資料には、次のように記されている。

〈平原氏と初めて面会。山下埠頭の開発の話を紹介される〉

山下埠頭の開発がカジノIR計画を指すの言うまでもない。飲食代は五人分で十七万九千六百九十九円。無論RXI側が支払っている。

度や変更については、この人を知っておいたほうがいい。

誘われた幹部は、東京・永田町にある合同庁舎まで足を運んだ。「この人」とは、官邸官僚の和泉洋人である。このとき和泉は内閣官房の地域活性化統合事務局長で、ゼネコン幹部を集めた勉強会を開き、斯界に幅広い人脈を築いていた。第二次安倍政権発足以降は首相補佐官となり、菅の懐刀として官邸のIR推進のキーマンとなる。RXI社幹部は河本の手引きで菅の最も頼りにする官邸の側近、和泉の知遇も得て、何度か会食もしたという。

さて当事者たちはこれにどう答えるか。和泉を直撃すると、「記憶がない」「知らない」などと繰り返す。元公明市議の石井は昨夏、急逝している。河本は経営するパチンコ運営会社や自宅を訪ねて取材を申し込んで、無視するばかり。携帯にかけて、「なんでこの番号を知っているんだ」と言っ

和泉は、河本と石井が同席する形でRXI社の副市長への接待は続いた。資料によれば、九月六日はRXI社の日本法人代表と四人で九万二千九百三十三円。十月二十四日も同メンバーで十

誘われた幹部は、東京・永田町にある合同庁舎まで足を運んだ。「この人」とは、官邸官僚の和泉洋人である。このとき和泉は内閣官房の地域活性化統合事務局長で、ゼネコン幹部を集めた勉強会を開き、斯界に幅広い人脈を築いていた。第二次安倍政権発足以降は首相補佐官となり、菅の懐刀として官邸のIR推進のキーマンとなる。RXI社幹部は河本の手引きで菅の最も頼りにする官邸の側近、和泉の知遇も得て、何度か会食もしたという。

副市長の平原に、自宅前で話を聞いた。

「IRやMM21の開発に乗り出そうとしたRXI社とのやり取りについてうかがいたい。菅首相のタニマチとして報じられてきた河本善編からRXI社を紹介されたのか。」

「RXIといわれても、ぜんぜん覚えてない。河本さん？ あー、なんか週刊誌に出てたねえ。タバコ吸っていい？」

「そう言いながら路上で紫煙を吐き出した。」

「河本もご存じない？」「どんな字を書くの？ あっそう、サンズイの河ね。会ったかもしれないけど」

平原 敏英

〒221-0017 横浜市中区港町1-1
Tel: 045-221-XXXX Fax: 045-221-XXXX
E-mail: xxxxx@xxx.co.jp

「横浜市の山下埠頭に計画しているIR開発に興味はありますか。そこに大阪のユニバーサル・スタジオを誘致します。よ

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

膨大な資料の頁をめくると、菅を頂点とする横浜カジノ利権の闇の構図がくっきりと浮かびあがってくる。

四月一日には平原が副市長に就任。この背後にも、彼らの長年の関係性が見え隠れする。

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

トップシークレットの話

決定的な「情報漏洩」が疑われるのは一六年六月二十四日。場所はやはり滝川。時系列資料には「2016年6月24日 料亭滝川 横浜市長」としてこう記されている。

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「五月に、河本がRXI社の日本法人幹部にこう声をかけたところから話は始まった。」

「俺か? そんなこと言っていないよー。だって都市計画ってそう簡単に変えられるものじゃないよ。横浜市の制度を紹介することはあっても、そこで容積率を緩和しますから、なんて軽々しく約束できるわけないじゃない」

「飯に制度の説明に止め
たとしても、開発業者とそ
の手の話を密室ですること
はありえるのか。特別扱い
ではないか。」

「そうですね、特別だった
かもしれない。石井先生に
呼ばれて行ったら、その
(業者の)人たちがいたのか
も知れない。料亭でやった
のがまずかったかと言われ
りや、あまりよくないのか
もしれないね」

「飲食代は払ったのか。」

加重収賄になる可能性

RX1関係者によれば、冒頭に記した「オヤジに一本」との台詞は平原が言ったものだという。

最初は「どんな字を書く

——RX-1との宴席では、菅首相のことをオヤジと呼び、一本、つまり一千万円を持参しなければならない、の？」と言っていたのに、国籍まで思い出したという。平原の話は、聞けば聞くほどブレるのだ。

と口にしていたようだが。

「言うわけないじゃん、そんなこと。俺、菅先生とそんな親しくないです。いい加減にしてほしい」

副市長接待に同席していたR X I社幹部に聞いた。当初は「話せないんですよ」と言いながらも、しぶしぶ次のように認めた。

「石井氏と河本氏はRX
Iの幹部を連れて副市長室
を何度も訪ねている。その
記憶はあるか。」

「ああ、その人。今思い出
したよ。人相風体も思い出
した。韓国人の人、そうい
えば、副市長室に来たこと
はあるよ。でもRXIの話は

「平原さんがオヤジと呼ん
で、一本と言ったので驚い
たんです。印象的だったの
でよく覚えています。容積
率の説明も確かに受けまし
た。ただ、仮にあのまま契
約が進んでも、裏金なんか
予算化できない（＝二千万
円など用意できない）。あの

「故人には確認のしようがないが、事実、R X I 側はそれを知らず、一切会費を受け取っていない。調停資料には R X I 側が全額を支払った領収証や請求書も添付されている。」

「いた、いた。怪しい人物だな、という思いはあります」
最初は「どんな字を書く

の？」と言っていたのに、国
籍まで思い出したという。
平原の話は、聞けば聞くほ
どブレるのだ。

副市長接待に同席していたR X I社幹部に聞いた。当初は「話せないんですよ」と言いながらも、しぶしぶ次のように認めた。

「平原さんがオヤジと呼んで、一本と言ったので驚いたんです。印象的だったのでよく覚えています。容積率の説明も確かに受けました。ただ、仮にあのまま契約が進んでも、裏金なんか予算化できない（＝二千万円など用意できない）。あの

与真も
別人格？

二階俊博幹事長（82）ら
自公幹部五人が日本料理店
で会食したのは、八月十七
日昼のこと。国民には四人
以下での会食を求めていた
だけに批判を浴びたが、そ
の日の夜、人通りの減った
銀座に現れたのは――。

八日深夜〇時四十分過ぎ。
上機嫌の直哉氏は路上で
立ち止まり、一人のスマホ
を皆で覗き込んで大爆笑。
その後、自宅近くでタクシ
ーを降りた直哉氏は付近の
駐車場で煙草を吸ってか
ら、千鳥足で帰宅した。

夜八時二十分。豪雨の中、和服女性に先導され、男性三人組が雑居ビルに吸い込まれていく。そのうちの一人が、二階氏の次男・直哉氏（49）だった。向かう先は、彼の行きつけという会員制クラブ「S」だ。一行がビルから出てきたのは、約四時間半後の翌十

クラブ「S」のビルに入る直哉氏

現在はコンサルル社を経営する直哉氏。だが、父親の政治活動と無縁ではない。「二階氏には三人の息子がいますが、長男の俊樹氏は一六年、二階氏のお膝元である和歌山県御坊市長選に出馬して惨敗。現在は三男の伸康氏が後継者として地元回りをしている。しかし、二階氏が『三兄弟の中

で「一番政治家向き」と目をかけていたのが、直哉氏なのです」（二階家を知る人物）。

○八年八月、二階氏は経産相に就任すると、直哉氏を大臣秘書官に抜擢。○九年九月に退任するまで傍らに置いた。直哉氏はこの間、少なく見ても、約四百万円の報酬を得たことになる。

「直哉氏を秘書官にしたのは、英才教育の一環だったのでしょう。ただ、その後の直哉氏は事務所を離れて中国ビジネスに傾倒。とはいえ、一五年に総務会長だった二階氏が主導して約三千人にのぼる大訪中団を結成した時には、その一員として直哉氏も同行していた。同じ年に、直哉氏は日本とベトナムが共同開催した交流イベントの実行委員に加わっていますが、ベトナムは二階氏が友好議員連盟会長を務めるなど、縁の

息子は「别人格」？

深い国。直哉氏は父親の政治活動の周縁で仕事をしていると言えます」（同前）

当の直哉氏はどう答えるのか。携帯で直撃した。

十七日夜に銀座のクラブに行った？

「仕事の付き合いでそういうことも。（相手が）地方から出てきた場合は。今回（の同行者）もコンサル先。今は政治に関わってないし、勘弁してもらえねえかな」

訪中団に参加していた。

「それだって自費ですよ。政治の関係で人をたくさん送り込みたいと言ったから、行っただけで。（政治は）家業でも何でもないし、俺はそんな志はない。後継問題

一階超側

引退でき

長男の不

「代議士のところにも情報が入っているんでしょうけれど、ちゃんとしたことを言わないといけないと思い、この資料作って来ました」

場は、肝腎気を壊せないの
聞き流しましたけどね」

結局、R X I社は横浜
市の契約条件で折り合いが
つかず、一七年に入ってから
撤退した。挙句、コンサル
タント契約を巡り、河本
との民事調停手続きにまで
発展したのである。長らく
M M 21の六十二街区の開
発は中断されてきた。そし
て、容積率や高さ制限は、
滝川での密談から五年経っ
た今も緩和されていない。
つまり滝川でR X I社が得
た情報が、公表前の機密だ
ったことに疑いはない。

特定業者から高額接待を
何度も受け、便宜を図った
となると、道義的な責任は
もとより、法に触れる疑い

がある。元検事の弁護士、落合洋司が指摘する。

「カジノＩＲ計画に職務権限のある副市長が関連業者から接待という賄賂を受けていれば、単純収賄に該当しうる。さらに機密情報漏えいしたのが公務員としての不正行為と判断されれば、より罪が重い加重収賄になる可能性があります。加重収賄の時効は最長で十年なので、このケースは時効にもかからない。捜査の対象になります」

地元のカジノＩＲ利権を巡り、怪しげな動きを繰り広げた昔のタニマチや側近たち。菅が意のままにしてきた横浜市政の闇が暴かれようとしている。(文中敬称略)

二階“超側近”が
引退できない
長男の不倫報告書



八月一日、成田市内のそば屋。後援会幹部から資料を受け取った林幹雄幹事長代理（74）の表情がみえる曇っていく。

今期限りで身を退くはずが……

灵芝が愛飲の皆様に、おトクなニュースです！
 日本をはじめ、アメリカ・中国の州、国立大学でも
 研究用に採用された

高品質 飛驒灵芝

よいものだからこそ長く愛飲してほしい、そう考えたから、
 この価格が実現しました。三十五年以上にわたる科学的
 研究、栽培実績の成果を結集したのが「飛驒灵芝」
 です。その品質は国内・海外で高く評価され、研究用
 灵芝として採用されています。※「飛驒灵芝」は商標です。



1kg (1000g) **30,000円**

500g **17,000円** (各都道府県送料別)

たから長期愛飲者にごそ、自信を持ってお勧めします

ご注文
 お問合せ

<http://www.tdai-yakusan.co.jp/>
 飛驒灵芝 第一薬産 検索

☎ 0120-22-0963

※ 送：きき・約米等ご要望に応じます。
 ※ 随時開封、密着7日間後は返品可（送料送料込者負担）

第一薬産株式会社 〒506-0003
 岐阜県高山市本町59

林氏は、父親で元環境庁長官の大幹氏の地盤を継ぎ、九三年に初当選。経産相などを歴任し、現在九期目のベテランだ。二階俊博幹事長の側近と言われるが、「ただの側近ではなく、超側近」。会見や会食には必ず付き従っています。先日とも党幹部の五人会食が批判されましたが、本来は自公の幹事長、国対委員長四人の会談だったところ。二階氏には、通訳「代わりの林氏が必要だったため、五人になってしまったのです」(政治部記者)。

その林氏には、跡継ぎがいます。千葉県議の長男・幹人氏(47)。〇七年の県議選で初当選し、現在四期目だ。

「実は林氏は引退し、次期衆院選には幹人氏が出馬する方向で調整されていた。実際、幹人氏は六月頃から辻立ちを始め、七月下旬にも『親父は引退する』と言っていました」と言っていました。

と、反論しているという。実は、こうした強気な姿勢の背景には、自身を「ゴリ押し」する大物たちの存在もある。

「市長選の厳しい見通しが伝えられていた八月十八日、麻生派の佐藤勉総務会長が二十分ほど首相と面会。これに先立ち、麻生太郎副総理は佐藤氏に『俺は総理を支える。安倍さんも同じ考えだ』と伝え、佐藤氏はそれを同期の間柄でもある首相に話しています」(官邸関係者)。

安倍、麻生両氏の支持を得られる手応えを掴んだ首相は、九月末の総裁選に勝利した上で十月上旬の解散を模索し始めた。実際、「十月には感染者数も落ち着き、ワクチンも希望者の八割には行き渡る。少し議席を減らす程度だ」などと口にしてはいる。

なぜ、安倍、麻生両氏は

菅支持に舵を切ったのか。

「二人、特に安倍氏は森友・加計問題を蒸し返すような政権は困る。つまり、幾ら国民的人気が高くても、石破首相、だけは避けたのです。その点、菅首相であれば、まだ安心と言えるでしょう」(安倍氏周辺)。

ただ、今回の「ゴリ押し」には、一つ条件があるという。

「彼らが首相に求めているのは、二階俊博幹事長の交代です。党のカネや人事の主導権を二階氏に握られて、苦々しく思っているのを、二階氏を副総裁に棚上げし、岸田文雄前政調会長のようなコントロールの利きやすい人物を幹事長に据えたいわけです」(同前)。

三人の「同床異夢」で、だが、今の菅首相はこう漏らしている。

「幹事長の交代は難しいんだよな……」

約一年前の総裁選で先陣を切った菅氏に出馬を要請し、政権誕生の流れを作り出したのが、二階氏だ。

「二階氏は八月三日の時点

で『統投して頂きたい』という声の方が、国民にも党内にも強いのではないかと述べ、いち早く支持を表明しました。昨年と同じように首相に「恩」を売る一方、周囲には『幹事長を続ける』と言っています」(二階派関係者)。

安倍氏、麻生氏、二階氏。「同床異夢」ではありながら、昨年に続き、派閥談合で菅首相の再選へ道筋をつけようとしているのだ。

しかし――。

彼らを尻目に総裁選出馬を表明したのが、高市早苗前総務相だ。

「高市氏は清和会出身で安倍氏に近く、保守層の期待も高い。それが如実に出たのが、フジサンケイグループの『タカフジ』が八月二十日に行った『次の党総裁にふさわしい人』調査でした」(政治部デスク)。

回答者二千六百二十五人のうち、菅首相支持は一一・九%に対し、高市氏支持は八一・〇%に及んだ。

「高市氏が出馬を決意したのは、清和会の中堅議員から『推薦人は責任を持って

集めます』と口説かれたから。安倍氏は『自分は支援しない』と伝えていますが、清和会からは『菅では選挙を戦えない』という意見が噴出してきている。派閥から高市氏の推薦人が出るのを黙認する可能性は十分にあります」(清和会関係者)。

さらに、安倍氏や麻生氏の支持を得ることが難しい中、あの人、も決断を下した。「ここで逃げるわけにはいかない」と意気込む岸田氏だ。岸田氏が県連会長を務める広島県では、四月の参院再選挙で自民党候補が敗北。この時の経験から岸田氏は最近、こんな警鐘を鳴らしている。

「参院広島選挙区では、自民党の基礎票は五十万票ある。だが、再選挙では三十万票しか入らなかった。二十万票が『寝た』わけだ。自民党支持層が選挙に行かなくなってしまう。菅さんと二階さんで総選挙をやれば、同じことが起こる」

かくして、勃発した「岸田・高市の乱」。この先、政局はどのように展開していくのか。

菅首相のまま解散すれば……

「首相は『高市は出られない』と、岸田も大したことない」と漏らしています。しかし、横浜市長選の結果を見る限り、菅首相のまま解散総選挙に突っ込めば、自公で過半数割れも現実味を帯びてきました。派閥の領袖たちが菅支持で談合すると、当落選上の中堅・若手たちは落選してしまう。ただ内閣支持率に比べ、自民党の支持率はまだ堅調です。今後、彼らの間から『総裁の顔』さえ押さえておけば、選挙を勝ち抜ける」という声が一気に湧き出てくるでしょう」(前出・デスク)。

小誌が先週号で報じた菅首相の「解任論」。これを受けて、首相は周辺に、「あり得ないだろ。何があっても絶対にやり抜く」と語気を強めたというが、果たして――。

派閥若手の突き上げを食らう安倍氏
盟友の麻生氏も二階氏とはビミョーな関係

「不倫報告書」(上)

探偵がまとめた

「二階氏の背後には必ず林氏が

合の音声によれば、まずは二階氏の近況について、林氏はこう語っていた。

「とほけているのかボケているのか分からないところはあるけれどねえ。右翼も毎月三十台ぐらい和歌山の御坊にきている。『もう日本にいらねえ』とね」

しかし十五分ほどが過ぎた頃、冒頭のように後援会幹部は「不倫報告書」を突き付けたのだ。黙り込んで報告書に目を通す林氏。幹部はこう切り出した。

幹部「ずっと一緒に居る」

林氏「うーん……」

幹部「昼は女の家、夜はスナック。調べました」

林氏「うーん……」

こうした調子で一時間は

お膝元の横浜市長選(八月二十二日投票)で、最側近だった小此木八郎氏が惨敗した菅義偉首相。ANNの世論調査(二十一、二十二

日実施)では内閣支持率が二五・八%まで急落した。

自民党の平将明衆院議員(当選五回)はこう語る。

「最近では菅首相がコロナ対策を頑張れば頑張るほど、支持率が落ちていくように見える。衆院選を控えた若手には恐怖でしょう」

菅「ゴリ押し」安倍麻生 二階に岸田・高市の試

「電話だと言った言わないとなりますので、直接、説明させて頂きたいです」

だが翌二十二日朝、編集部宛に届いたのは「急用につき本日お会いできなくなつた」旨のFAX。そして二十三日夕、幹人氏は書面で以下のように回答した。

「貴誌が指摘の不倫との事実はありません。ご支援いただいている皆様の信頼を損なうことのないよう、今後も地元のため県政に尽力して参ります」

林氏も「県議に確認したところ、貴誌が指摘の不倫については事実ではないと聞いています」などと回答。こちらも、この親に、て、この子あり――。

保守層の支持は厚い高市氏
2度目の挑戦となる岸田氏

